

学会賞

小学生向け金融教育（マネ育[®]）の実践報告

— 授業実施における工夫と今後の可能性と課題 —

Practice Report of Financial Education for Elementary School Students Ingenuity to Conduct Classes and Future Possibilities and Challenges

日本FP協会員CFP[®] 西岡 奈美 (ニシオカ ナミ) / *Nami NISHIOKA*

日本FP協会員AFP 竹内 香織里 (タケウチ カオリ) / *Kaori TAKEUCHI*

キーワード (Key Words)

金融教育：Financial Education, 金融リテラシー：Financial Literacy,
公立小学校：Public Elementary School

〈要 約〉

2020年度から全面実施される小学校新学習指導要領の内容に「消費者教育」が明記された。かつ、「金融教育」についても、充実が図られると記載されている。筆者らは6年前から独自に小学生向け金融教育を展開してきた。活動の中でも特に公立小学校における授業実施を重要と考え、手探りで活動している。世の中の変化とともに変わっている小学生の現状の考察、それを踏まえての授業計画・実施の軌跡、具体的な工夫を記録する。実践から見えてきた小学生向け金融教育の可能性と課題を述べると共に、現状、すぐに展開を拡大するにはまだ時間が必要であろう公立小学校の学校教育で金融教育の授業がスタンダードに行われることを目指したい。

目 次

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 活動形態について <ul style="list-style-type: none"> 2.1 活動対象者・なぜ小学生なのか 2.2 実施形態 3. 小学生の現状 <ul style="list-style-type: none"> 3.1 教員の方との共通認識 3.2 授業実施を経ての小学生の現状 <ul style="list-style-type: none"> 3.2.1 「物を大切に」が伝わらない 3.2.2 おこづかいはもらっているが貯金をして使わない 4. 実践報告 <ul style="list-style-type: none"> 4.1 実践の軌跡 4.2 授業内容のポイント 4.3 6学年のカリキュラム・2018年度の授業内容 5. 授業実施における工夫 <ul style="list-style-type: none"> 5.1 対象年齢による授業内容の工夫 5.2 小学生の現状を踏まえた上での工夫 5.3 学校教育に受け入れられるため工夫 | <ul style="list-style-type: none"> 6. 他の開催形態における工夫 <ul style="list-style-type: none"> 6.1 単発授業における工夫 6.2 公的施設主催での開催における工夫 7. 授業後の反応（アンケート）・感触 <ul style="list-style-type: none"> 7.1 子どもの反応 7.2 教員の方の反応 8. 実践から見える可能性や課題 <ul style="list-style-type: none"> 8.1 可能性 8.2 課題 9. まとめ |
|--|--|

1. はじめに

日本FP協会員であるCFP[®]西岡奈美とAFP竹内香織里は2013（平成25）年度より、6年間にわたり小学生向け金融教育（マネ育[®]⁽¹⁾）を中心に

⁽¹⁾ マネー教育の略称。お金の教育のことを「金銭教育」「金融教育」「金融経済教育」と様々な言い方があるが、それとほぼ同じ意味。CFP[®]西岡奈美が商標登録を取得している。第5941206号

活動を行ってきた。小学生向けの金融教育は1名の講師で行うことも可能ではあるが、小学生の理解度をより深めるため、2人ともにメイン講師として2人で1つの授業を行っている⁽²⁾。講座実績(PTA講演会も含む)は150回超になった。ここ数年で大きく依頼が増えている。

現在、学校教育という意味での金融教育というと主に中高生に実施されているが、小学生も(間接的であったとしても)、毎日のようにお金と接している。筆者らは金融教育も義務教育同様、教育の土台となる小学生から学ぶべき事柄だと強く思っている。小学生のうちからある程度の土台となる金融知識を持つことが出来れば、その後の中学、高校での授業も円滑に進むだろう。それは、人生においての「生きる力」になるに違いない。また、筆者たちの活動を知った教員、保護者共に、必要な教育であるので、もっと展開してほしいという声も頂いている。

今回、小学生向けの新学習指導要領にも金融教育の充実という内容が記載された。このことから今後、小学校でも金融教育が実施される環境になり、需要も増えるであろうことから私達供給側、つまり金融教育を行う者も増えていかなければならない。筆者たちは6年間、前例が少ない中、手探り状態で進んできた。筆者たちと同じ想いがある、金融教育を行いたいとは思っているが、実際の所、どのように展開、実施していけば良いのか分からないFP資格者が潜在的にたくさんいるのではないだろうか。

この実践報告はこれから小学生向けに限定せずとも、金融教育を行いたい者が、どのように展開していけば良いかわからない時の役立つヒントになり、結果的に金融教育がさらに拡大されれば幸いと思い、6年間の実践の内容と軌跡、また実践から見てきた可能性と課題を記載することとした。将来は、公立小学校の学校教育で金融教育の授業がスタンダードに行われてほしいと願う。しかし現状、今すぐに学校教育で展開を拡大するにはまだ時間が必要である。たくさんの方が、学校教育以外のところでも、金融教育を届けていく過程でその動きが大きな渦になり、将来的に学校教育にスタンダードに取り入れられることを目指したい。

⁽²⁾ 兵庫教育大学教授堀内孜氏らによる(2009)「教員の職務実態からする「複数担任学級」の意義と効果 - 参与観察調査、質問紙調査による「少人数教育」の検討(2)」によると複数名で授業を行うことへの優位性が記されている。

2. 活動形態について

2.1 活動対象者・なぜ小学生なのか

筆者2人ともに、小学生の子を持つという特性から小学生向け金融教育を主軸にしている。現実に小学生を子育てする中で、リアルに感じた問題点や日常生活に起こる現代の関心事(例えばスマートフォンのゲーム課金や電子マネー)を授業の内容に組み込むことが出来ることは、大きな強みであるし、授業を効果的に行う上で欠かせない要素である。金融教育を行いたい者が、どの年代に対し金融教育を行っていくかを決定する際、出来るだけ身近に接することが出来る年代を選択すれば良い。仮に、年代が離れている場合は、対象年代のリアルな現状を知る努力が不可欠である。

2.2 実施形態

現在、筆者たちが金融教育を行うことが出来る場所・機会は複数ある。

2.2.1 学校との直接契約

学校、教員、PTAから直接連絡を頂戴し、実施する形。直接契約に至る経緯は、筆者(竹内)の子どもの担任(後述する竹森教諭)に懇願して授業をさせて頂く形から始まった。竹森教諭が教育研究会などで授業を知ってもらおう機会を多々作ってくださり、そこから他校の先生が依頼して下さる形で繋がってきている。複数年に渡る継続授業で実施している。

2.2.2 消費生活センター、租税教室などの出前講師、土曜学習講師

日本FP協会の実施するパーソナルファイナンス教育インストラクター事業や、日本奨学生支援機構が実施するスカラシップ・アドバイザー事業と似た形で、講師登録をし、そこから派遣される形で小学校にて授業を行っている。リピートされることもあるが、単発授業になることがほとんどである。

2.2.3 公的施設での開催

夏休みや春休みなどの長期休暇の間に、消費生活センターや、生涯学習センター、男女共同参画センターなどの公的施設が主催者となって、講師依頼を頂き、開催する形。1つのイベントとして行われる。

この中でも、筆者たちは公立小学校での普通授業の授業実施を特に大切に感じている。上記の3つの中では(2.2.1)の全部と(2.2.2)の一部がそれに当たる。

その理由は、教育熱心ではない家庭の子どもや貧困層の子ども達に公立小学校の普通授業を通し



図1 筆者が2018年～2019年で行った14の講演会でのアンケート結果 総回答数147

て金融教育を提供できるためである。渡邊万里子(2017)の先行研究⁽³⁾によると、世帯収入の多寡で学力に差が見られるとある。筆者たちは、そういった子ども達にこそ、金融リテラシーを身につけてもらいたいし、金融教育の機会を提供したい。

普通授業での実施以外の講座は基本的に任意の子どもが参加する。任意の子ども達が参加する講座は、保護者がアンテナを張り、講座が開催される事を見つけて申し込みを行わなければならない。つまり、教育に関心の高い家庭が参加している可能性が高い。参加している子ども達の理解においても、講座を進める上でスムーズに理解が進むことが多く、筆者たちの実感として、元々金融リテラシーを持ち合わせている子どもが多いと感じる。

断っておくと、筆者たちは自身の特性や信念から公立小学校での授業実施を特に大切に思っているが、もちろん他の開催形態に効果がないわけではない。筆者作成のアンケートの結果(図1)からも、まだ半数以上が資産運用をしたことが無いと回答しているし、日本経済新聞が2019.1.21に公開した数字で見るリアル世論 郵送調査2018⁴によると、将来のお金について不安に思っている人が87%もいる。こういった人の不安を払拭できる機会は今後も増えていくことが望ましい。

るが、もちろん他の開催形態に効果がないわけではない。筆者作成のアンケートの結果(図1)からも、まだ半数以上が資産運用をしたことが無いと回答しているし、日本経済新聞が2019.1.21に公開した数字で見るリアル世論 郵送調査2018⁴によると、将来のお金について不安に思っている人が87%もいる。こういった人の不安を払拭できる機会は今後も増えていくことが望ましい。

3. 小学生の現状

ここからは、現在の小学生について分析・研究・考察したことを記載する。

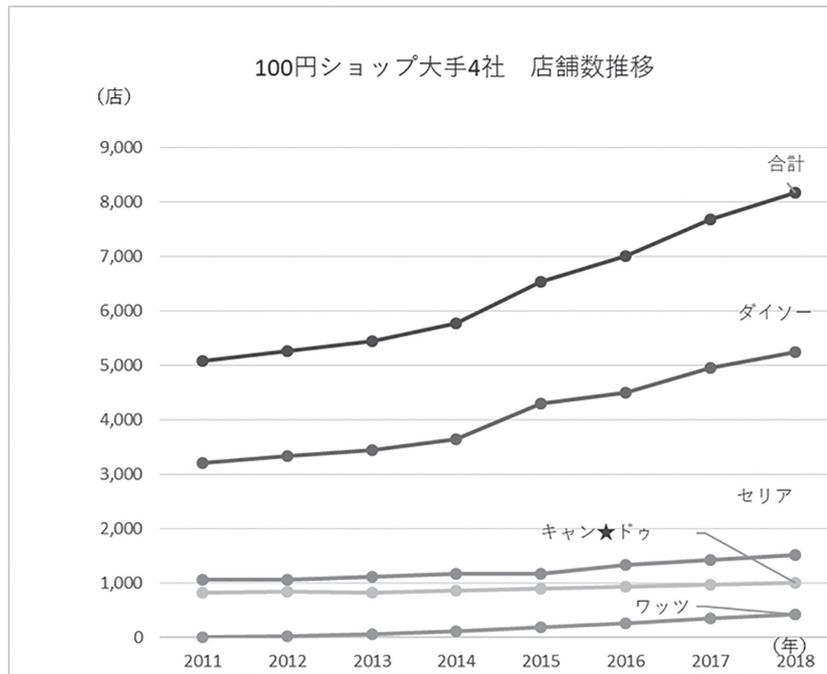
3.1 教員の方との共通認識

6年間を通して、一緒に公立小学校での金融教育(マネ育[®])授業を行ってくれている教員がいる。兵庫県三田市立H小学校教諭の竹森順子氏

表1 小学生の実態・問題点 教諭との共通認識

最近の日本の小学生における実態 《金銭面》	実態から見る問題点 《事例》
<ul style="list-style-type: none"> ・給与振込の家庭が多く、親が働いてお金をもらっている姿を見る機会が少ない。 ・お金を実際に使う機会が少ない。 (子どもだけで安全に買い物できる駄菓子屋さんや文房具店が減っている。お金を持たせる家庭が減っている) ・日本の家庭では、お金の話がタブー(消極的)である。 ・将来について改めて考える機会が少ない。 ・社会の仕組みを考える機会が少ない。 (学校でも家庭でも) ・他国に比べ、小さいころにお金のことや経済のしくみについて学ぶ機会が少ない。 ・ネットゲームや動画を簡単に操作できる。 ・携帯電話やスマホを所有している。または親の所有物を共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> ★親への感謝の気持ちが少ない。働いて育ててくれてありがとう・物を大切にすることが薄く、落とし物をして気付かない、気にならない。 ★身の周りのものの値段を知らない。 ★高額な物を平気で欲しがらる。 ★カードは、お金を払わなくてもよい「魔法のカード」と思っている。 ★物は「パソコンのボタン一つで買える(届けてくれる)」と思っている。 ★子ども自身が、自分を「夢の卵」であることに気付いていない。(無限の可能性はある) ★社会人になっても為替や株式、年金は保険の機能があるなど基本的な経済のことを知らない。 ★手軽にお金の移動ができるようになってきている故トラブルも増えている。

⁽³⁾ 渡邊万里子「若い世代における金融とキャリアに対する関心の育成」(2017)はじめにより



各社IR資料をもとに筆者が作成

図2 100円ショップ大手4社 店舗数推移

だ。竹森教諭と筆者(竹内)の懇談にて、2013年、金融教育授業を開始するまでの小学生の実態・問題点の共通認識を表1にまとめると以下のようになる。これらの問題は6年経った現在も変わらない。

3.2 授業実施を経ての小学生の現状

筆者たちが授業を実施して感じた小学生の現状を述べる。

3.2.1 「物を大切に」が伝わらない

2016年頃から授業で使う「物を大切に」の言葉が子ども達に伝わっていないと筆者たちが感じはじめる。筆者たちが子育ての経験や現代の背景から考えた分析が以下である。「物を大切にしましょう」という言葉は、子育てをしている母親であれば、一度は口にすることがある言葉だが、現代の子どもには物の大切さが伝わりづらくなっている背景がある。なぜならば、「物を大切に」と伝える親が「断捨離」と言って物を捨てる、欲しい物があるときに一旦100円均一ショップで購入してみて、使えない物であれば、捨てて買い直せばいいといった生活を日常的に行っていることを、子どもは知っているからである。現代は昔と違って、物があふれる時代である。筆者が作成した図2で示した様に、100円ショップ大手4社の店舗数推移を見てみると、2014年を境に急激に増え現在も増加している。100円均一ショップが飛躍的

に店舗数を伸ばす現代、「物を大切に」という言葉は伝わらない。また、キャッシュレス決済の推進も「物を大切に」が伝わらない要因の一つになりうる。キャッシュレス決済は、簡単・便利・コスト削減とメリットも多いが、Avni, S. Noah, E. James, B. and Tanya, C. (2016) は、キャッシュレス決済は、現金で払うより物のありがたみを感じにくいと知っている⁽⁵⁾。現在わが国における約2割のキャッシュレス決済比率を将来的には世界最高水準の8割を目標に必要な環境整備を進めていくと経済産業省のキャッシュレス・ビジョン⁽⁶⁾でうたわれており、ますます子ども達にとって「物を大切に」が伝わらない環境にある。

3.2.2 おこづかいはもらっているが貯金をして使わない

知るぼると「子どものくらしとお金に関する調査」(第3回)2015年度調査⁽⁷⁾の調査によるとお

⁽⁵⁾ Avni, S. Noah, E. James, B. and Tanya, C. (2016) “‘Paper or Plastic?’: How We Pay Influences Post-Transaction Connection” 研究結果より。

⁽⁶⁾ 経済産業省 (2018)「キャッシュレス・ビジョン (要約版)」
https://www.meti.go.jp/report/whitepaper/data/pdf/20180411002_02.pdf

⁽⁷⁾ 知るぼると (2015)「子どものくらしとお金に関する調査 (第3回) 調査結果の概要p3」
https://www.shiruporuto.jp/public/data/survey/kodomo_chosa/2015/pdf/15kodomo.pdf

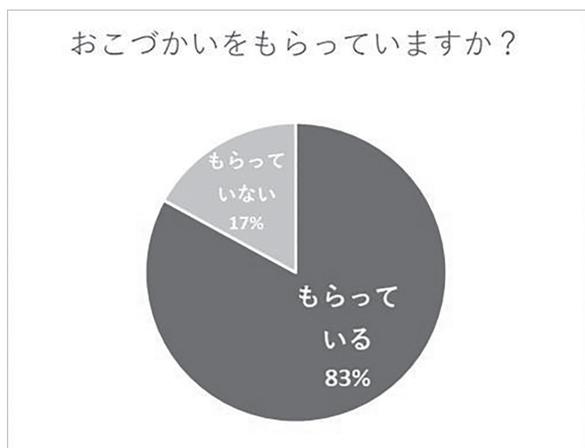
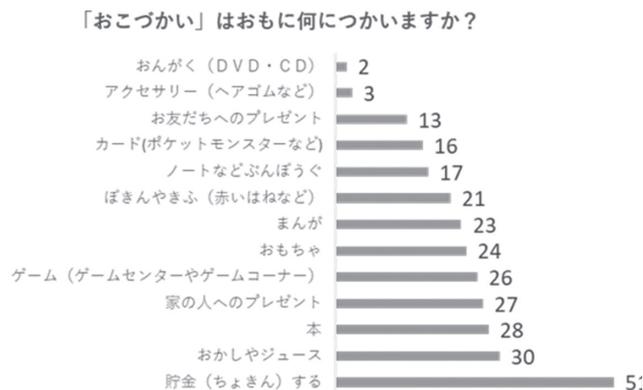


図3 兵庫県西宮市立A小学校3年生 アンケート結果 総回答数 106



子どもの実態としては、まだ自分で直接お金を使っている子が少ない。(親が必要な物を購入し、少額のおこづかいをもらっている子が多い) ことから、この時期にお金の使いかたとしてバランスよく使う、ためる、人にあげるをしていくことを考えたいのはよからぬ。

図4 アンケートを実施した先生の声



図5 授業でつかうスライド

こづかいは、小学生の7割強、中学生の8割強、高校生の約8割がもらっている。筆者が兵庫県西宮市立A小学校3年生の授業実施時に行った独自の調査でも、おこづかいは約8割がもらっている(図3)。しかし、そのおこづかいの使い道はというと「貯金」が1番を占める。アンケートを行った学校の先生からの声(図4)でも、実際にお金を使っていない子が多いことがわかる。また、授業で「おこづかいをもらっている子はそのお金を何に使っているのか? どうしているのか?」と聞くと、同様に「貯金」と答える子が多い。

欲しい物、必要な物は6ポケットと言われる両親(父母)、父方祖父母、母方祖父母が購入し、自分のおこづかいは貯める。子どもは、自身のお金を使う機会が無いのである。筆者たちが子育てをしていても感じることだが、昔と比較して、駄菓子屋や文房具屋など安全に子どもだけでお金を使える場所が少なくなっていることも関係していると考えられる。

4. 実践報告

ここからは前述の小学生の現状を踏まえたうえで、公立小学校で計画・実施した実践内容について記載する。学年により、難易度に差をつけているが基本的にはどの学年も「お金は感謝のしるし」「お金はありがとうとの交換でやってくる」というメッセージは共通させていることを最初に

記述しておく。変化に富む金融教育に変わらないマニュアルはないと言われるが、「お金は感謝のしるし」を実際に日常肌で感じ、理解することができれば、それが「生きる力」の揺るがないマニュアルになる(図5)。

4.1 実践の軌跡

2013年度から兵庫県三田市立H小学校(以下H小学校)の授業に組み入れていただいている。初年度は2年生の1学年での実施であった。その後、数年かけて現在は全学年で実施できるようになっている。

〈取組経過〉

- 2013年度の取り組み→2年生のみ
- 2014年度の取り組み→1年生から3年生
- 2015年度の取り組み→1年生から4年生
- 2016年度の取り組み→全学年実施
- 2017年度の取り組み→全学年実施
- 2018年度の取り組み→全学年実施

4.2 授業内容のポイント

授業内容は、学習指導要領も参考に作成した6年間のマネ育®金融教育プログラムで下記ABCを達成することを目標としている。

- A. お金は「ありがとう」の気持ちと回っていることを知る。

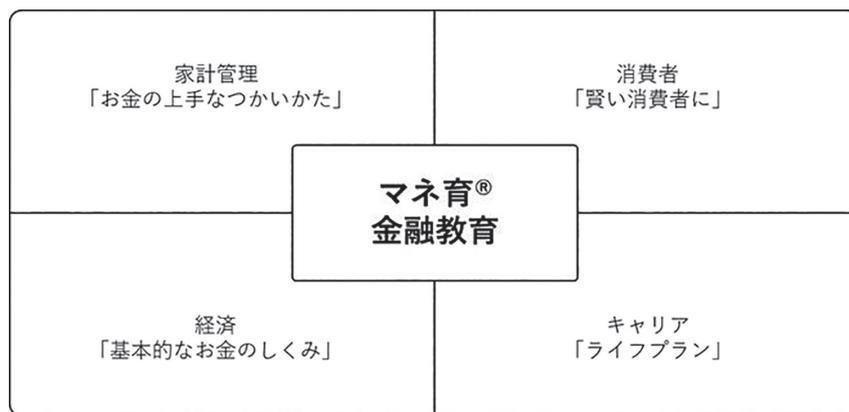


図6 金融教育の4本の柱

- B. 金融教育の4本の柱⁽⁸⁾と言われている①家計管理②消費者③経済④キャリアを身につける。筆者たちがイメージ図を作成(図6)。
- C. 子どもたちの実態から見る問題点や、身近におこるお金のトラブルを教員の方と共に考える。

4.3 6学年のカリキュラム・2018年度の授業内容

筆者たち作成の2018年度実施H小学校マネ育[®]授業6学年カリキュラム(図7)と竹森教諭作成の指導計画書を記載する(図8)。前述の軌跡に記載した通り、2016年度からH小学校では全学年実施になった。対象学年の学習内容、理解度を

考慮してこの内容に固まりつつあるので、小学生向けの授業を行う方の参考になれば幸いである。

5. 授業実施における工夫

5.1 対象年齢による授業内容の工夫

知るぼるとが発行する金融教育ガイドブックにも記載されているように、金融教育に児童生徒の発達段階に応じてその内容に配慮が必要であることは言うまでもない⁽⁹⁾。

低学年：豊かな体験を通して感受性や信条に働きかけることが重要。

中学年：周囲の人や地域とのかかわりに関心を持ち始めるため、そうした機会を通じて自分で考え、判断し、責任を持つと言っ

対象	学習内容	ねらい	4つの柱	対応科目
1年生	お金と仲良くなろう！物のねだんをしよう！	日頃使用する硬貨や紙幣に関心を持ち、お金に親しむ	家計	総合・生活
2年生	お金は、ありがとうと交換を体験する	お金を使って、お買い物、お店やさんをし、お金の流れを学ぶ	家計・消費	総合・生活
〃	働くって？ありがとうをもらうには？	自己分析・自己理解を通して、働くについて考える	キャリア	総合・生活
3年生	日常生活にかかるお金	日常生活にかかるお金の知る、欲しい物と必要な物を考えてみよう	経済	社会・道徳
4年生	銀行のしごと	社会のお金の流れやしぐみを知る	経済	社会・道徳
5年生	電子マネーでお買い物！	プリペイドカードなど見えないお金について学ぶ(使用上の注意含む)	消費	社会
6年生	5年間のまとめ	5年間分の学習内容の復習、おばあちゃんへの手紙	家計・キャリア	家庭科

6年生授業のおばあちゃんへの手紙は、著者(西岡)がマネ育[®]講師になった理由(実話)

図7 2018年度実施 H小学校マネ育[®]授業6学年カリキュラム

⁽⁸⁾知るぼると(2007発行 2016改訂)「金融教育プログラム「学校における金融教育の年齢層別目標」(「年齢層別の金融教育内容」改訂版) <https://www.shiruporuto.jp/public/document/container/program/mokuhyo/>

⁽⁹⁾知るぼると(2005初版, 2014改訂)「金融教育ガイドブック-学校における実践事例集-P15ガイドブックの利用にあたって2. ガイドブックの特徴と実践にあたっての留意点(2) 実践にあたっての工夫と留意点より」 <https://www.shiruporuto.jp/public/data/magazine/guide/guide005.html>

学年	授業内容（例）	日時	ねらい
1	①お金の歴史を知る ②日本のお金と世界のお金 ③お金カルタであそぶ ④お金の大切さを知る	1/2 6 2/2	・日常目にする硬貨や紙幣に興味を持ち、お金に親しむ。 ・世界に目を向け、いろんな国で使っているお金が違うことを知る。 ・お金の特徴を「お金カルタ」で遊びながら知り、お金に興味を持つ。
2	①お店屋さんを開いて、物を売 買し働く経験をする。（お店さ さんごっこ） ②自分の得意なことや好きなこ とを考え、自分が将来なりたい仕 事を考える。（夢発表会）	1/2 6 2/2 2/6	・お店屋さんを開いて、お金の流れを学ぶ。 ・お金は「ありがとうとの交換」を体験す る。 ・働くは「はたをらくにする」経験をする。 ・自分の得意を考え、将来就きたい仕事や なりたい自分を考え、友だちと交流する。
3	くらしにかかるお金を知る。	2/2	日常生活に使われるお金(光熱費等)を知り、 無駄遣いしないような意識を育てる。
4	社会の中での「お金の流れ」を知 る。（銀行などの仕組み）	2/8	「お年玉のゆくえ」からお金がどのように 社会の中で流れていくかを知り、興味を持た せる。
5	クレジットカードの仕組みを知 る。	2/8	カードもお金の代わりであることを知り、 その実態を知る。便利性と危険性について学 ぶ。
6	税金の種類やその仕組みを知 る。	1/2 6	税金の仕組みを知って、社会の中のお金の 流れに興味関心を持たせる。

図8 竹森教諭作成の指導計画書

た態度を養わせる。

高学年：論理的なものごとを捉え、体験をとま
わらない知識も吸収できる時期になるた
め、たとえば、発展的な学習として、金
融や経済のしくみ、地域経済とわが国経
済とのかかわりにも目を向けさせる。

具体的な工夫をあげる。

低学年では、実際に世界のお金や日本の古銭に
触れたり、カルタを行ったり、お店さんの模
擬体験をしたり、「触る」という動きを伴った体
験を組み入れる。中学年では、暮らしにかかるお
金について、またはお金の流れを説明した後、子
ども達自身がどのように行動すれば、より良い暮
らしになるのかグループワークで話し合いを持
ち、発表してもらい、発表したことを実際に実行

できるように促す。高学年では、グループワーク
で話し合う内容を、クレジットカードや税金が社
会に与える影響を考えるように向ける。自身の枠
から出て、社会という視点で物事を考えることが
できるように促しサポートする。

その他、全学年に共通している工夫がある。小
学校における授業は対象学年に応じて、学習済み
の漢字に差がある。全ての文字をひらがなにすれ
ば良いわけではないし、全ての漢字に振り仮名を
つけておけばよいという物でもない。必要に応じ
て、言葉を簡単に言いかえることや、対象年齢に
応じた漢字の使用を心がける配慮も必要である。
小学校教育の現場で日常的に行われている配慮
を、行なわなければならない。

5.2 小学生の現状を踏まえた上での授業内容の工夫

おこづかいはもらっていても貯金をし、実際お金を使ったことがない子どもに単純に「お金を大切に」と言っても伝わらない。また、「無駄遣い」という言葉を好む大人も多い。「無駄遣いをしないよう伝えて欲しい」といった依頼が多々あるが、はたしてこのような現状の子ども達に、「無駄遣い」という言葉が通じるのだろうか？ 前述したように時代も変化している。もちろん貧困層など様々な環境への配慮は頭に置いておいた上で、現代の金融教育では「物を大切に」から「大切にできる物は何ですか？」というように質問の仕方を変えるなどの工夫が必要である。

5.3 学校教育に受け入れられるため工夫

H小学校の授業の場合、全学年で授業を実施していただいているため、学校全体の教員の方に協力してもらうことになる。単発ではなく継続して授業を行っていくためには、金融教育について知ってもらうことも重要だが、教員の方に筆者たちの授業を受け入れてもらいやすい環境をつくることが何より重要となる。行っている工夫を大きく2つに分けると以下ようになる。

5.3.1 教員の方に著者の授業実施について安心していただく

- ・教員の方と事前に打合せし、リクエストや日常に抱えるお金のトラブルなどは細かくメモして、ニーズを把握しておく。
- ・打ち合わせ内容を反映させた授業計画書を作成し、渡す。
- ・休み時間などに積極的にコミュニケーションを取り、児童たちと仲良くなる。

5.3.2 できる限り教員の方に手間をかけさせない。こちらが行えることは筆者が行う

- ・教員の方に用意してもらうのは、全学年共通で電子黒板の準備・ワークとアンケートの印刷のみとし、簡潔でわかりやすい最低限の準備のみをお願いする。
- ・授業のアンケートは筆者がまとめて共有する。

5.3.3 そのほか

- ・金融教育のニュース、金融教育やキャリア教育の動向、自分たちの活動を見やすい資料にして手短かに報告する。
 - ・感謝の気持ちを伝える。
- 公立小学校で授業を行うことは、任意ではなく全員に金融教育を提供できること、机上の論ではない真の生きる力となる授業をつくる上で貴重な多くの子ども達の実態を知ることができるという価値がある。貴重な機会をいただいていることに常に感謝の気持ちを忘れず、そのことを教員の方に伝え続けることも行っている。

6. 他の開催形態における工夫

ここで学校教育以外のほかの開催形態における工夫も述べておきたい。2.2実践形態に記述した(2.2.2)と(2.2.3)における工夫である。実施形態に違いがあるため、工夫・配慮も多少変わってくる。

6.1 単発授業における工夫

単発授業は、ほとんどが1コマか2コマの実施で45分か90分の実施になる。この単発授業の場合は、教員の方との接点が少ない。打合せは電話・メールなどで行うが、実際にお会いするのは授業実施当日のみということが大半である。そのため、打合せ時のコミュニケーションは限られた制約・時間で先方と当方に意思の相違なく行うことが最重要となる。

こういった場合は「一番児童さんに伝えたいことは何ですか？」という質問を投げかけると良い。「一番」というところがポイントで、限られた時間内で伝えられることを取捨選択を一緒に行なう意味がある。さらに、「お金のことを学ばせたい」と漠然と感じているが、具体的に何をしたいか決まっていない、分かっていない教員の方もいる。そういった時のために、こちらがいくつか授業例を持っておくことも重要である。この授業例で授業をイメージしてもらい、教員の方の想いを聞きだすことは有効である。

以下に、筆者作成の授業例のスライドと授業計画案を記載する(図9, 10, 11, 12)。



図9 授業例1：お金とは何か？お金の大切さを考える授業（45分）

西宮市立〇〇小学校 6年生授業計画案

講師名：キャサリン（竹内かおり）・ナンシー（西岡奈美）

日時	H30 〇〇/〇〇 〇〇/〇〇	場所	西宮市立〇〇小学校
テーマ	マネー教育～お金について考えてみよう～		
本授業のねらい	お金の歴史・役割・ものの値段のしくみを知ることでお金の大切さ・働く人への感謝を考える。お金は感謝のしるし		
授業配分の流れ	学習のねらい	学習内容	備考
導入（10分）	本日の目的を知る	・先生より ・自己紹介 ・アイスブレイクーお金の種類ー	PC 投影機器
展開（10分）	お金の歴史から役割を知る	・寸劇を見てお金がどうしてできたのかを知る ・お金は目的ではなく道具であることを学ぶ	
（10分）	・ものの値段のしくみ ・働くとは何かを考える	・チョコレートの値段のしくみを知る ・ゲーム機がどんな人の力で製品になっているのか考える（指名） ・働くの語源について	
（10分）	感謝について考える	・講師の体験談「私のおばあちゃん」の話を朗読 ・感謝を伝えることが大事だということを考える	
まとめ（5分）	まとめ	・本日のまとめ ・アンケート ・先生より	資料 アンケート

【ご連絡事項】

●ご準備いただきたいもの

①パワーポイントの使用について

使用します。投影機器をご準備ください。PCは当方が持参します。HDMIケーブルです。

②配布資料2種類

「お金を上手に使う3つの方法」印刷方法 A4 白黒で児童さまの人数分ご準備ください。授業では使用致しません。ご家庭で読んで頂くための資料です。

図10 小学6年生授業計画案（続く）

「アンケート」A5 白黒印刷。A4 に 2 人分のアンケートを割り付けてあります。半分に切っておいてください
 いますよう、お願い申し上げます。

●児童さまにご持参いただきたいもの

① 筆記用具

●その他：先生方にはお世話になります。臨機応変にお手伝いいただければ助かります。

図 10 (続き) 小学 6 年生授業計画案

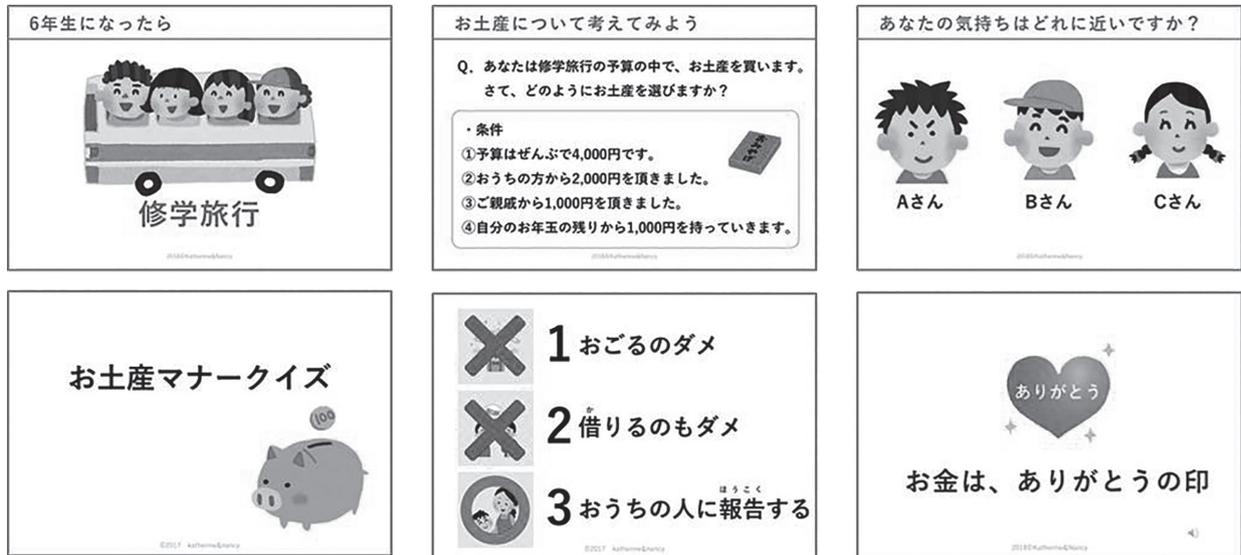


図 11 授業例 2：修学旅行でのお金のつかい方・マナーなどを考える講座 (90分)

6.2 公的施設主催での開催における工夫

公的施設での開催は消費生活センター、金融広報委員会、生涯学習センター、男女共同参画センター、その他に今年度は金融庁からの依頼があった。公的施設主催の講座全てに共通している事は、講座を受ける児童は複数学年に渡るということである。当然、単学年実施の学校授業と違って、児童の理解度に差があることが特徴となる。

例えば、小学生全学年対象の授業の場合、筆者たちは3年生が理解できる内容で構成する。低学年には難しい、高学年は簡単すぎる構成となるので、低学年の児童には簡単な発問のほか、文字を読み上げてもらうなど、「分からなくてつまらない」と思わせないことが重要になる。反対に高学年の児童には、自身の考えを述べてもらう、グループワークの際、リーダーを務めてもらうなど「年長者であるからこそできること」を行ってもらう。また、同じ内容の説明について、文言を言い換えて難→易で伝えると皆が理解できる。

親子一緒に講座を受ける親子向け講座で多いのも、この形態である。親子一緒に参加する講座の場合は、親子で話し合ったり、作業したり、または親だけに話をする時間をつくったり、児童の金融教育以外の価値を付加する工夫も必要である。

更に、学校授業との明らかな違いが一つある。

それは講座にタイトルをつけなければならないことだ。学校授業の場合は明確なタイトルは必要ない。受講者は講座のタイトルを見て申込をしている。その際、受講する内容をおおよそ予想し、期待している。面白そうなタイトルであることはもちろん、タイトルと内容にズレがあってはならない。しかしながら、内容がまだ定まっていないうちに講座のタイトルを早々に決めなければならないことが往々にしてあるので、一度決めたタイトルと内容がずれない様、細心の注意を払う必要がある。

<公的施設主催の実施タイトル例>

- ・「生きる力」を育む＝マネ育®親子で学ぶお金の大切さ
- ・～お金は「ありがとう」との交換～ゲームやワークでお金の使い方を考えよう
- ・お金はどこからやってくる？ キャサリンとナンシーと学ぶお金のおはなし

7. 授業後の反応 (アンケート)・感触

7.1 子どもの反応

H小学校の授業では、年1回の授業にもかかわらず、前年のことを覚えている子どもが多い。ここでは2～6年生まで毎年授業を受けてくれた6年生のアンケートとその結果(図13)を記載する。

西宮市立〇〇小学校 5年生授業計画案

講師名：キャサリン（竹内かおり）・ナンシー（西岡奈美）

日時	H30 〇〇/〇〇 5.6 校時	場所	西宮市立〇〇小学校
テーマ	お金のつかい方		
本授業のねらい	修学旅行でのお金のつかい方を考えられるようになる お金がありがとうとの交換でやっていることを改めて学ぶ		
授業配分の流れ	学習のねらい	学習内容	備考
導入 (15分)	自己紹介 FPとは アイスブレイク	・自己紹介 ・FPの仕事について説明する ・どっちが大きい?「金額の大小を見分けるゲーム」	PC 投影機器
展開 (30分)	※お金の基礎 お金の歴史 お金の役わり お金のつかい方	・お金の歴史をスライドで学ぶ。 ・お金は便利な「道具」であることを知る。 ・お金のつかい方についての順序と考え方について学ぶ①ニーズとウォンツ②貯蓄は先取り③トレードオフ	
(30分)	※修学旅行 お土産 お金のマナー	・お土産の買い方について3つの考え方(サンプル)を聞き、自身はどの考えに近いかを話し合う→発表→お土産についての考え方を知る ・お金のマナーをクイズ形式で確認する①おごらない②貸さない借らない③報告する	ワークシート
まとめ (15分)	感謝の気持ち	・お金はどこからやってくる?クイズで働いていっている人の気持ちを確認、感謝する。	アンケート

【ご連絡事項】

●ご準備いただきたいもの

①パワーポイント・PCの使用について：使用します。PCを当日持ち込みます。投影機器のご準備をお願いいたします。

②配布資料：2種類

「ワークシート」印刷方法 A4 白黒・児童さま人数分

「アンケート」印刷方法 A5 白黒 児童さま人数分→お送りしている資料は A4 に 2 枚を割付けしています。印刷後半分に切っておいてくださると助かります。

●児童さまにご持参いただきたいもの

①筆記用具

●その他：先生方にはお世話になります。臨機応変にお手伝いいただければ助かります。

図 12 小学5年生授業計画案

児童の感想は授業後数日以内に書かれたものであり、その後児童たちがお金についてどのように接することが出来ているかは分からない。ただ、複数年に渡り継続してお金について学ぶ時間を持つことが、単に上手にお金を扱うことだけでなく、お金の大切さ、社会のしくみ、家族への感謝など、お金を通して繋がっているものを感じ取ってくれているような結果になっている。

7.2 教員の方の反応

ここでは、H小学校の竹森教諭の感想を始め、授業に協力して下さった担任の先生の感想を記載したい。

竹森順子教諭の感想

授業を行って、教育的効果はすぐに見られなくても、近い将来必ず役に立つ知識や情報が提供できること、また本当の意味で自立するための「生きる力」を養う大切なヒントがたくさん盛り込まれた内容であることが実感できるようになった。

5年間、一緒に学ぶことができ感謝しています。お金と上手くつき合せて、豊かな人生を送ってください。みんなの感想が、力になります。心に残っているものに☑チェックして、(何個でもOK)感想を書いてください。どうぞよろしくお願いします。

2年生	 □おみせやさんごっこ	 □夢の発表会	 □お金はありがとうとグルグルまわる
3年生	 □銀行のおしごと	 □新聞で会社さがし	 □株ゲーム
4年生	 □物を大切にする魔法の言葉	 □先生お金の思い出話	 □お金の上手な使い方
5年生	 □森のクマさん	 □電子マネーのしくみ	 □1億円体験
6年生	 □税金のしくみ	 □1億円体験	 □おばあちゃんの話

キャサリンとナンシーへのメッセージ、心に残ったこと何でも書いてください☺

【6年生アンケート 「5年間で心に残った授業」回答数 27】

- | | |
|-----------------|--------------------|
| おばあちゃんの話 (26) | お金の上手な使い方 (18) |
| 税金のしくみ (24) | お金はありがとうとグルグル (17) |
| 株のゲーム (22) | 1億円体験 (16) |
| 先生のお金の思い出話 (22) | 新聞で会社探し (13) |
| 電子マネーのしくみ (22) | 物を大切にする魔法の言葉 (12) |
| おみせやさんごっこ (20) | 夢の発表会 (12) |
| 森のクマさん (20) | |

感想文

- ・5年間ありがとうございました。お金の授業が無ければ、お金の大切さに気付かなかったと思います。これからも授業で教えてもらったことを大切にしていこうと思います。これからも全国にお金の大切さを教えていってください。応援しています。
- ・お金がどのように使われているか全く知らなかったけど、わかりやすく教えてくれたおかげでお金を大切に使えるようになりました。銀行の仕事も知らなかったけど、知ることができました。
- ・お金の大切さを身近に感じることができました。心に残ったことは全部です！生きていて、物を買う時や普通に生活しているだけでもお金と関係しているとわかって、ゴミの分別を頑張ろうと思いました。ナンシーの実話が感動しました。
- ・お金の大切さ、私たちが小学校に行けているありがたさを知りました。私たちのために働いてくれているお父さんお母さんにありがとうという気持ちを伝えたいです。
- ・お金は感謝と一緒にまわっていて、今、私たちが学校にいることができるのも、家族や国のおかげだからありがとうとお金を大切にしようと思いました。
- ・この5年間にお金の有難さや大切さがよくわかりました。K&Nの授業で株のしくみやお金の使い方、しくみがよくわかった。お金を大事につかうようになりました。

図13 6年生のアンケート

私は現在、校内で「キャリア教育」の担当をしており、2014年度から兵庫県でも取り組んできた。スタート当初は、どこの学校もどんなことをしたらいいのか右往左往していたが、本校は既に取り組んでいた「金融教育」が真にこれではないか!!と自信が持てた。キャリア教育の観点からも、今後、公教育の中で継続的に取り組まれ、子どもたちの「生きる力」を養う貴重な分野（領域）として位置づけられていったらいいなと思っている。

担任の先生方からの感想

- ・普段できないような勉強ができたこと、本当に良かった。特にお金の実物を触れさせてもらえたり、お金カルタをさせてもらったりして、楽しみながらもお金の大切さをみんなが学ぶことができたと思う。こういう機会が年に何回かあり、6年間の積み上げが大きな成果になるものだと思う。(1年生担任)
- ・準備物が大変充実しており、子ども一人一人が楽しんで活動できたと思う。特にお店屋さんごっこの時の準備は、頭が下がった。看板になるワークシートには感動した。子ども達はお金の授業を本当に楽しみにしている。それは、毎度、考えつくされた楽しい授業だからだと思う。(2年生担任)
- ・子ども達は、2年生の時の学習をよく覚えていて、今回の学習に自然につながっていたと思う。キャサリンとナンシーの名前も覚えていました。(3年生担任)
- ・毎年恒例という感じで子ども達は落ち着いて授業に入れていた。実際にポチ袋を配ることで興味がわいていた。(4年生担任)
- ・毎年、新しい発見の積み上げがあり、少しずつお金について学びを深めていける気がしました。(4年生担任)
- ・今までの学習の振返りができ、大変印象に残る授業を作って頂けたと思った。クイズも簡単なものから難しいものまで用意されていて、子ども達も引き込まれていた。お金の大切さを改めて考え感謝して使ってくれると思う。(6年生担任)

先生方のアンケートから毎年授業を継続して行う事の効果を感じて頂けていることが読み取れる。

8. 実践から見える可能性や課題

ここまで、筆者たちの活動について述べてきた。この活動は筆者たちのライフワークで、今後も仕事として取り組む所存である。最後に実践を通して感じる可能性と課題を述べたい。端的に言うと、

市場の拡大は感じるが、専門で仕事として行っていくには金銭面で不安が残る。リアルな実情を記載するので参考にしてもらえればありがたい。

8.1 可能性

8.1.1 新学習指導要領に「消費者教育」が明記、「金融教育」充実の文言

2020年度から全面実施される（現在は移行期間）新学習指導要領の内容に「消費者教育」が明記された。かつ、「金融教育」についても、充実が図られると記載されている。以前、竹森教諭が金融教育の実践について教員向けに何度か発表したところ、「面白そう!」「やってみたい!」という好意的な反応の一方、「指導要領にはないのに…」という否定的な意見もあるとのことだった。今回の新学習指導要領の内容はこういった否定的な意見を払拭することができると考えられる。好意的に金融教育を受け止めてもらえるであろう。

8.1.2 金融教育に対して問題意識のある世代の教員が管理職に

著者たちの活動に特に興味を持ってくださる教員の方は、ほとんどが子育て世代である。この世代の教員の方は自身の年金の事を不安に思ったり、ライフプランのことを心配したり、子どもの教育費について悩んだりしている。それ故、金融教育への関心も高いというのが筆者たちの実感である。ただ授業を実施するにあたり、その上司である管理職の決裁が必要になる。管理職やベテラン世代の中には、金融授業に対する抵抗がある人がまだ多数おられ、金融教育への理解を得るのが難しく、それが壁となって授業ができない現状があるが、前述の新学習指導要領の内容が周知されていく中で、教員も世代交代し、より金融教育が注目される環境になることを期待する。

8.1.3 世論

新聞でキャッシュレスという文字を見ない日はない。その他にもNISA、iDeCoなど、資産運用に関する記事も目立つようになってきた。政府や金融庁も金融教育を重要なものであると位置づけている⁽¹⁰⁾。授業を参観していた保護者も金融教育

⁽¹⁰⁾ 知るぽると(2018)「第12回金融経済教育推進会議 議事録」

<https://www.shiruporuto.jp/public/document/container/suishin/pdf/20181219/gjjiroku.pdf>

吉國 眞一氏(金融広報中央委員会会長)と中島 淳一氏(金融庁総合政策局総括審議官)の発言として記録されている

を評価している。意識が高まってきたメディア⁽¹¹⁾や以下に記載する保護者の声に後押しされる形で、小学校教育に取り入れられると嬉しい。

PTA主催 講座参観の保護者の感想

- ・家ではなかなか聞けない話をしていただけて、私も聞けて良かった
- ・普段からお金の使い方はわかっているつもりなのに、今日ではっきりしたような気持ちになりました
- ・これからは色々考え悩みながらお金について考えてほしいです
- ・自分が豊かになるのはどっちだろう？お友達と一緒にものを買うこと？自分が本当に欲しい物は何だろう？そんな風に考える機会を与えてくださってありがとうございます。お金の話だけでなく、子ども達の人生にも大きな実りをもらえたように思います。もちろん親もです。高い安いだけでなく、もう少し自分の気持ちに寄り添って買い物してみようと思います。

8.2 課題

8.2.1 限られた授業数の中での参入

新学習指導要領で外国語教育・プログラミング教育が導入され、道徳も教科化された。限られた授業数の中で「金融教育」を単体で取り入れてもらうことは容易なことではない。

これを打開するためには、金融教育を行う者が、既に行なわれている教育、教科、特別活動の中で連携を図ることが出来ることをアピールする努力が必要不可欠であると考え。

知るぼるとのHPにも各教科と金融教育についての記載がある⁽¹²⁾。小学校に係る部分を抜粋すると金融教育と生活科、社会科、家庭科のほかに国語と算数との連携について記載されている。その他、道徳、特別活動、総合的な学習の時間との連携にも触れられている。

<1>各教科と金融教育—エその他の教科

- 1) 国語 (前文略) 例えば国語で扱う題材として金銭や生活設計などを用いた場合、いわば間接的に金銭や生活設計に関する関心を高め

ることにつながり、結果として金融教育と関連する。また、こづかいなどの金銭の使い方について討論したり、作文にまとめたりする学習を行う場合、国語で育てる表現力などに関連があると考えられる。

- 2) 算数 (前文略) 例えば加減乗除に関する学習において、ものの値段や費用などを題材として取り上げる場合、そこでの学習は算数のねらいの実現を目指すとともに、生活における消費や販売に関する学習の役割を果たしている(後文略)。

<2>道徳、特別活動と金融教育

<3>総合的な学習の時間と金融教育

このように「金融教育」は、どの教科とも連携できるということを教員の方に知ってもらう必要がある。

ここに、1つの案として、<2>特別活動と金融教育を連携させ、修学旅行をテーマにした授業例を提案したい。6.1単発授業における工夫に記載した授業例2(図11, 図12)である。筆者は2017年度兵庫県西宮市の小学校で実施している。修学旅行の機会を使って行う金融教育はFP学会のHPに掲載されている吉田淳子(2016)⁽¹³⁾にもある通り、非常に有効な機会であると考えられるが、実情は、学校教育では時間の制約のためか、もしくは適切な指導者がいないためか、おこづかいは単なるイベントに過ぎないものになっている。金融教育を行う者が、継続的、かつ適切に教員に対して提案を行うことが出来れば、実施できる可能性は広がると考えている。

8.2.2 ボトムアップアプローチへの限界・複数学級への課題

H小学校の授業は、筆者(竹内)が当時子どもの担任であった竹森教諭に金融教育について熱意を持って話し、それに竹森教諭が共感した形で始まった。もう一人の著者(西岡)も、自身が住む伊丹市で学級担任にお願いし、授業をさせてもらったことがある。しかし、普通授業という形では単年度で終わってしまった。理由は、H小学校が1学年1クラス、単学級の学校に対して、伊丹市の小学校は1学年複数学級であったことが壁となった可能性が高い。金融教育について教員の方が興味を持ってくださったとしても、それを管理職

⁽¹¹⁾ 関西の情報番組でマネー教育が取りあげられ、H小学校での取り組みについて筆者たちに取材が来た。他にも、神戸新聞2018年6月24日朝刊の経済面に小学校での授業内容が掲載された。

⁽¹²⁾ 知るぼると(2016)「金融教育プログラム(全面改訂版)―社会の中で生きる力を育む授業とは―4.金融教育の指導計画の作成と実施に向けて(2)各教科等の学習と金融教育」
<https://www.shiruporuto.jp/public/document/container/program/program04/program402.html>

⁽¹³⁾ 吉田淳子(2016)「特別支援学校における金融教育の事例報告―合理的配慮に基づいた教材の提案」3.1.1.おこづかいの使い方(東京都金融広報委員会 金融広報アドバイザー)
http://www.jasfp.jp/img/16_yoshida.pdf

に伝えることも手間であるし、複数学級の場合、同学年の担任に同意を得ることが難しいようだ。ボトムアップアプローチの限界を感じざるを得ない。

教育委員会へのアプローチなどトップダウンアプローチも並行で行わなければならない。そのためにはもっと小学校における金融教育に取り組む者が増え、事例がたくさん出てくることが望ましい。

8.2.3 金融教育への意識

筆者（竹内）は、金融授業を始めた当初、三田市の教員向けに金融教育について発表の機会を得たことがある。その場で受けた質問に「お金の授業の成果は何か？お金の授業をすることで、逆にトラブルを引き起こす可能性が広がらないか？」との質問を受けた。お金の話をすることに対して、消極的な姿勢から出た発言だと考えられる。また、竹森教諭も以下のように話している。子どものキャリアを育てるという点で、未来的にとっても良い取り組みだと思うが、目に見えないバリアのようなものがあるように感じる。それは、新しいことへの危惧や不安感、それぞれの学校の事情（学級数・児童の家庭の実態・教師集団の質・管理職の反応）だ。そこがこの教育の課題だと思う。

8.2.4 金銭面的な課題

有難いことに金融教育が注目され、筆者たちの依頼は増えているが、小学校で授業を行う場合は、ほとんどがボランティアである。実際には交通費など経費が掛かるため、身銭を切って行かせて頂く。この形は、筆者たちが、たまたま家計に自身以外の世帯主がおり、金銭のことを考えなくても授業を実施できるからこそ言えられていることである。これでは、継続的に金融教育を拡大していくことは難しい。資金面の問題が課題だ。学校に予算がないということで授業の依頼、検討を断念されることもある。予算がないことが原因で授業ができない状況をつくらないため、金融教育の予算化を提案する。同じ思いであっても、ボランティアで金融教育活動できるFPは少ないという現状だ。「お金の教育は大切」と言われながら、金融教育が広がらない要因の一つがお金というのは何とも残念なことである。

9. まとめ

今回、6年間で行った約150講座の活動内容の記録と、想いを綴る論文になったが、まとめていく上で、活動を思い起こすきっかけとなった。たくさんの方の公立小学校教員の方と関わりコミュニケ

ーションをとる中、記録には残っていないが、複数の教員の方から伺った内容から考えることがある。最後に記載する。

実際の所、中学生や高校生向けの金融教育と比べ、小学生向け金融教育は教えるプロである教員の方なら、金融に関する専門知識なくても教えられる内容である。しかしながら、専門家からお金の話をしてもらおうということが非常に有益だという。それは、学校の教員の方は毎日児童と接しており、各児童の家庭環境も把握している。富裕層の子もいればその逆もある。それ故、お金についての発言をすることはデリケートで難しい。金融教育に好意的な教員は、FPをはじめとする金融教育を行う者が、専門家としての立場で話す事を望んでいる。教員が踏み込みづらい領域にもFPであれば専門家として踏み込める部分がある。今後も実践・研究を継続し、小学生向けの金融教育に貢献できれば幸いである。

参考文献

- Avni, S., Noah, E., James, B., and Tanya, C. (2016) “Paper or Plastic? : How We Pay Influences Post-Transaction Connection” 買い物の価値をかみしめたいならカードではなく現金で払おう 堀内孜・大林正史・田中真秀・浅田昇平・国祐道広 (2009) 「教員の職務実態からする「複数担任学級」の意義と効果—参与観察調査、質問紙調査による「少人数教育」の検討 (2)」京都教育大学紀要 (115), 81-98
- 経済産業省 (2018) 「キャッシュレス・ビジョン (要約版)」 https://www.meti.go.jp/report/whitepaper/data/pdf/20180411002_02.pdf
- 日本経済新聞 (2018) 「数字で見るリアル世論」 郵送調査 (2019/1/21) <https://vdata.nikkei.com/newsgraphics/postal-mail-research/#/?current=section-4>
- 知るぼると (2005初版, 2014改訂) 「金融教育ガイドブック—学校における実践事例集—P15ガイドブックの利用にあたって2. ガイドブックの特徴と実践にあたっての留意点 (2) 実践にあたっての工夫と留意点より」 <https://www.shiruporuto.jp/public/data/magazine/guide/guide005.html>
- 知るぼると (2007発行 2016改訂) 「金融教育プログラム「学校における金融教育の年齢層別目標」(「年齢層別の金融教育内容」改訂版)」 <https://www.shiruporuto.jp/public/document/container/program/mokuhyo/>
- 知るぼると (2015) 「子どものくらしとお金に関する

る調査（第3回）調査結果の概要p3」

https://www.shiruporuto.jp/public/data/survey/kodomo_chosa/2015/pdf/15kodomo.pdf

知るぼると（2016）「金融教育プログラム（全面改訂版）－社会の中で生きる力を育む授業とは－
4. 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて
(2) 各教科等の学習と金融教育」

<https://www.shiruporuto.jp/public/document/container/program/program04/program402.html>

知るぼると（2018）「第12回金融経済教育推進会議

議事録」

<https://www.shiruporuto.jp/public/document/container/suishin/pdf/20181219/gijiroku.pdf>

渡邊万里子（2017）「若い世代における金融とキャリアに対する関心の育成」

<http://www.jasfp.jp/img/M.Watanabe.pdf>

吉田淳子（2016）「特別支援学校における金融教育の事例報告－合理的配慮に基づいた教材の提案」3.1.1. おこづかいの使い方（東京都金融広報委員会 金融広報アドバイザー）

http://www.jasfp.jp/img/16_yoshida.pdf